

JKJO関連大会開催における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン

大会開催について

大会開催にあたり開催される都道府県知事の方針に従い開催の可否については会場となる施設や施設管理者などと検討する

感染症対策について

主催者ならびに参加者は下記の事項を厳守する

参加者がガイドラインに違反した場合は出場取り消し、途中退場を求めるなどの対応を行う

下記の各事項については今後の感染状況や国の方針を踏まえ随時追加していく

以下の事項に該当する場合は自主的に参加を見合わせる

- ①37.5度以上の発熱
- ②息苦しさ（呼吸困難）強い怠さ（倦怠感）高熱などの強い症状のいずれかの場合
- ③咳、頭痛、下痢、嘔吐症状、味覚障害などのある場合
- ④家族の方で新型コロナウイルスに感染された方がいる場合
- ⑤新型コロナウイルス濃厚接触者として自宅待機となった方が近くにいる場合
- ⑥家族の方で発熱を伴う体調不良の方がいる場合
- ⑦過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域などへ渡航または当該在中者との濃厚接触がある場合
- ⑧マスクまたはフェイスシールドの持参
- ⑨手洗い、手指消毒をこまめに実施する
- ⑩他の参加者やスタッフなどの大会関係者との距離を一定（1メートルから2メートル）に保つ
- ⑪大会開催中に大きな声で会話、応援などをしない
- ⑫主催者は大会ガイドラインチェックリストを作成し各事項が厳守されているか会場内を定期的に巡回し確認する
- ⑬大会終了後2週間以内に新型コロナウイルスの感染者が確認された場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無などについて報告する
- ⑭感染の発生に備えて問診票（選手、保護者、審判員、スタッフ、代表者）を提出させるなど来場者名簿を作成して大会終了後1ヶ月間保存する
- ⑮必要に応じてPCR検査か抗原検査を行う（一般・シニア）

来場者問診票

主催者は感染が発生した場合に備え来場者に以下の情報の提出を求められる

- ①氏名、住所、連絡先、電話番号
- ②大会当日の体温
- ③呼吸困難、倦怠感、高熱などの症状
- ④咳、頭痛、下痢、嘔吐症状、味覚障害などの症状
- ⑤家族の方で2週間以内に新型コロナウイルスに感染された方がいる場合
- ⑥2週間以内に濃厚接触者として自宅待機となった方が近くにいる場合
- ⑦家族の方で発熱を伴う体調不良の方がいる場合
- ⑧65才以上の場合
- ⑨過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域などへ渡航または当該在中者との濃厚接触がある場合

受 付

- ①手指消毒剤を設置する
- ②受付場は飛沫感染防止のためアクリル板やビニールカーテンなどを設置する
- ③原則的に道場代表者が受付を行い、前者との間隔を1.5メートル以上開ける
- ④選手・関係者はマスクを着用する（人との接触が多い場合は手袋、フェイスシールドも装着する）
- ⑤開場待ちの来場者は一定の距離を保ち整列する
- ⑥来場者には記入した問診票を提出してもらい大会終了後2週間以内に感染者が発生した場合、濃厚接触者を特定できるように備える
- ⑦入場時に非接触型体温計で検温する ※上記の症状に当てはまる場合は入場不可とする
- ⑧選手の計量はマスクを着用し、出場コートごとに行う

入場者の制限

- ①必要最少限の人数を心掛ける（選手の付き添いは保護者1名とする）
- ②関係者以外の来場は認めない
- ③危険度の高い65歳以上の高齢者は入場不可（審判・スタッフ含む）とする

会 場

- * 出場者が100名程度（1コート～2コート）①～⑥
- * 出場者が300名程度（3コート～4コート）①～⑥に加え観客席があることが望ましい
- * 出場者が500名以上（5コート以上）①～⑥に加え大型施設のメインアリーナであること（貸し切りが望ましい）

- ①換気（窓の開閉）ができる
- ②冷暖房が使える
- ③更衣室がある
- ④会場内で昼食は不可とする

※関係者の飲食は指定された場所で行い、その際は周囲の人とできるだけ距離をとって対面を避け、会話を控える

- ⑤アルコール除菌液や手指消毒剤などを設置し、感染予防を徹底する
- ⑥各コートにも手指消毒剤を設置する

- ①②…窓の解放、換気設備の使用によって場内換気に努める外気の温度に注意して窓の解放による室内温度上昇には注意する
- ③…更衣室では利用者がそれぞれ密になるのを避け、マスク着用で入、退室の際には必ず手指消毒を行う

簡素化と分散

- ①原則的に開会式・閉会式は行わない
- ②事前にトーナメントを公表し、試合開始時間を通知する（分散集合を心掛ける）
- ③三密を避けるためアップをする場所は別会場が望ましい
- ④試合の経過やトーナメントが表示できるアプリなどを活用する
- ⑤終了後は換気・除菌を行い感染予防を徹底する
- ⑥保護者の観戦は自分の子供のみとする
- ⑦試合中に音を立てる行為は禁止（ジュニア）
- ⑧入賞者の賞状は、試合終了後、各道場へ送付する

防 具

- ①選抜クラスで使用するJKJO指定サポーター・ヘッドガードは各自で用意する
- ②ヘッドガードにフェイスシールドを装着することを義務付ける
- ③選手の赤ひもは各自で用意する
- ④試合前後に各自サポーター消毒を行う
- ⑤試合終了後は速やかに退場し、手洗い・手指消毒を励行する

セコンド

- ①セコンドはつけないが、選手1名につき1人ビデオ撮影を許可する、その際必ずマスク着用と手指消毒を行い発声しない（ジュニア）
（指導者が記録のために撮影することも可）※撮影する場合は指定された席に座る
- ②セコンド1名、フェイスシールド・マスク着用と手指消毒を行い発声しない（一般・シニア）
- ③試合中に手を叩く、足を踏み鳴らす、手で足を叩き鳴らす等の音を立てる行為は禁止
- ④アリーナ内には選手やスタッフ以外の不必要な観客を入れない

審判員

- ①審判員はフェイスシールドと手袋を装着し主審はフェイスシールド+マスクをする
- ②審判交代をこまめに行う（5～10試合での交代が望ましい）交代時の挨拶は主催者側の判断に委ねる
その際にコート、審判椅子、旗などの消毒作業を行う
- ③各コート3審制も可とする
- ④試合後の選手の握手はしないこととする
- ⑤試合時の延長戦はない方が好ましいが判断は主催者側に委ねる
- ⑥選手との接触は極力避け、選手のダウンなどの処置・確認は医務に委ねる

スタッフ

- ①体調が思わしくない場合スタッフに入らない
- ②マスクを着用する（人との接触が多いスタッフは手袋、フェイスシールドも装着する）
- ③選手に極力接触しない
- ④防具・サポーターに触れた場合は手指消毒をすること
- ⑤大会終了後は着替えて会場を出る

観 戦

- ①団体代表者のみ本部席にて観戦可能とする
（本部席は飛沫感染防止のためアクリル板やビニールカーテンなどを設置するのが好ましいが主催者側の判断に委ねる）
- ②顧問など議員・後援者は極力招待しない

医務・救護

- ①原則大会ドクターを依頼する
- ②柔道整復師などの場合は合わせて看護師・救命救急士などを依頼する

その他

- ①マスク・プラスチック手袋・除菌液などを十分に準備するとともに感染者が出ないように平常時に増した安全対策をとること
- ②来場者とのトラブルを避けるため、事前に団体代表者への通知およびホームページへ掲載すること
- ③保護者は2階観覧席で密にならない様に前後左右1席以上空け必ずマスク着用すること
- ④観客のフェイスシールドは必要に応じて着用する
- ⑤主催者側は常に2名以上で見回り指導を心掛ける
- ⑥施設側とは十分事前に打ち合わせを行う
- ⑦大会終了後、感染者が確認された場合は、感染経路や濃厚接触者などの詳細を明確にしておくこと
- ⑧大会終了後の会食は極力控えること
- ⑨ご来場される方へ新型コロナウイルス接触確認アプリCOCOAを推奨します